

「第7回放射線計測専門家会合」開催報告

(公財) 放射線計測協会
研修・普及グループ

1. 概要

当協会主催「第7回放射線計測専門家会合」を平成31年1月10日に東京都文京区白山の東京富山会館において開催した。

この会合は、放射線計測の専門家相互で放射線計測に関する情報交換及び意見交換を行う場として、平成21年度から不定期に開催している。今回の会合では、IAEAから国が受けたIRRS勧告*を踏まえ、『放射線モニタリングにおける品質保証について』と題して、個人線量の測定及び環境モニタリングに関連する放射線測定の品質保証の仕組みや求められる測定精度等について、4名の専門家による基調講演の後、意見交換を行った。

2. 基調講演の内容

基調講演の内容は、以下のとおり。

講演1. IRRS 勧告を踏まえた放射線モニタリングの品質保証に係る対応について

二宮 久 氏 (原子力規制庁)

IAEA による職業被ばくモニタリングや公衆被ばくモニタリングに関する品質保証等に係る IRRS 勧告を受け、放射能分析を含めた環境モニタリングとその品質保証に係る現状と今後のあり方について、現在までの取り組み実績も含めて紹介があった。また、受動型の個人線量計を用いた測定サービスに係る品質保証向上の方向付けと対応の状況についても紹介された。

講演2. 放射線個人線量測定サービスの認定制度とその運用状況について

山田 亘 氏 (公益財団法人日本適合性認定協会)

IRRS 勧告により、個人線量測定サービス機関に対する認定制度が必要となったことを受けて新たに導入された NVLAP をひな形とした個人線量測定サービス機関認定プログラムの概要、ISO/IEC17025 に基づく品質保証や信頼性担保の仕組み、適用範囲、要求事項及び技能試験実施体制などについて紹介があった。

講演3. 環境放射線モニタリングにおける精度管理について

前山 健司 氏 (公益財団法人日本分析センター)

環境放射線モニタリングにおける放射能測定に関する精度管理の一環として現在行われている相互比較分析の現状や、複数のγ線放出核種を添加した標準試料の作製方法及び IAEA が実施する技能試験への参加を通じた技術レベルの維持の試み、さらには分析・測定に係るマニュアルの作成など、国内の分析機関の

質の保証への寄与のための取組について紹介があった。

講演4. 環境モニタリング線量計の現地校正に関する研究

黒澤 忠弘 氏 (産業技術総合研究所)

国内で実施されている環境モニタリング線量計の校正方法に係る課題や海外における環境モニタリング線量測定等の状況についての紹介の後、現在、産総研において進められている環境モニタに対する現地校正手法の研究開発について、その目的や不確かさ、高バックグラウンド下での校正に係る検討状況等について紹介があった。

3. 総合討論 (意見交換)

基調講演の後の総合討論では、以下のような意見交換、討論が行われた。

種々の環境試料中の放射能測定に係る分析機関の相互比較とその認証、短半減期核種の模擬線源に関する測定値のばらつき、線源の均一性に関する質疑応答の他、事業所境界及び一般環境中における放射線モニタ校正時の照射条件の影響などについて議論が行われた。さらに、環境モニタリングでの測定線量について、物理量である吸収線量 Gy とすべきか、あるいは計測実用量である周辺線量当量 Sv を用いるべきか、活発な意見交換が行われた。



会合風景

本会合の講演資料は、当協会ホームページで (<http://www.irm.or.jp/sennmonnkakaigouhoukouku7.pdf>) ご覧いただけます。

* 日本への総合規制評価サービス (IRRS) ミッション報告書 (日本語仮訳)、
<https://www.nsr.go.jp/data/000148263.pdf>